学生・教員懇談会

於　2017 年 11 月 16 日（木）12:10-12:50　法経学部第 1 会議室

出席者

＜学生＞

行動科学コース 2 名、歴史学コース 3 名、日本ユーラシアコース 2 名、国際言語文化学コース 6 名

＜教員＞

学部長、教務委員長、学生委員長、留学生委員長、各コース長、各コース学生委員、各コース教務委員、

傍聴者

学長、渡邉理事、菊地教育企画課長、坂田教育企画課副課長、藤原主任、

司会

内山教務委員長

司会　今回のテーマは英語教育である。コースごとに意見を聞いていく。

★学生からの発言

行動科学コース

2 年生

学部が英語力に関して学生にたいしてどのようなことを求めているのかということを今回初めて知った。

専門領域における英語教育の授業は明らかに少ない。

なにを求められているのかわからない。

イングリッシュ・ハウスは募集期間が短いなどの理由で利用しづらい。

3 年生

認知情報学基礎演習は英語の教材を使ってプレゼンテーションをする授業であるが、教員からのフィードバックが少なく、この授業を受けたからといって英語によるプレゼンテーションができるようになることはない。そういうことを教えるのが学部の方針であるのならば、そういう指導ができる教員をつけてほしい。

歴史学コース

2 年生

2 年全体の意見を集約した。

普遍教育の英語に関して、RWLS の 4 技能のうち授業を受けて本当に勉強したという実感があるのは RW のみで、LS はきちんとやることを求められているようには感じられず、実力がつくのかわからなかった。
普遍教育の授業で求められている英語力のレヴェルは低かった。

3 年生

R の力は国際言語文化学コースの授業をとって鍛えられた。
自分は専門の研究で文献が読める能力が必要と考え R の力を重視したが、学生本人が求める技能がしぼれていれば学部、大学の英語教育にたいする不満は少ないと思うが、そのように考えるのは少数派であるように思える。
学部の英語教育の現状に関しては、真剣に英語を学ぼうという姿勢が学生の側にあまりなく、高校レヴェルの文法の知識が身についていない場合が多く、そういう学生が要求ばかり言ってもしかたがないと思う。

3 年生

英語教育と言うとき、授業の枠内でしかとらえられておらず、大学で日常的に英語を使うという方向になっていないことに不満を感じる。

日本・ユーラシア文化コース

3 年生

学年全体に要望を募ったところ意見は寄せられなかった。
自分の見るところ、英語の授業は普遍教育のみ受けており、専門の授業で英語を使うものがあるとそれがハードルとなってやめてしまうという状況がある。
普遍教育では、抽選によってクラスが決まるので、4 技能を自分の希望どおり選ぶことができない。
論文を読む能力は普遍ではつかないが、あえて専門で英語をやろうとは思わない。
国際交流論の授業をとっても、英語ネイティブの学生のほうがこちらにあわせてくれるので、コミュニケーションを身につけることができないでいる。
英語だけで能力を伸ばすことはできないので、日本語の能力も同時に伸ばさなければならない。

1 年生

学年全体に意見を聞いたところ、普遍の TOEFL スコアによる単位認定の評価基準がどうなっているのかわからない。

国際言語文化学コース

2 年生

国債の授業では英書講読、論文作成の授業があり読み書きの力はきたえられるが、プレゼンテーション能力を鍛える授業が少ない。

普遍教育ではTOEFLのスコアでクラス分けをしたほうがいいと思う。

2年生

学部では 1 年のときにとれる英語の授業が少ない。普遍教育によって補えると思ったが、履修学生の学力レヴェルが均一でなく、授業のレヴェルもあっていなくて、効果がなかった。2年になって専門の英語を受けると、とくにSの授業でレヴェルの差についていけなかった。Sの能力を磨く授業をもっと増やしてほしい。

2年生

授業がRWに偏っている。

大学生は主体的に勉強をするものであるから、どんなこともすべて教えてほしいとは思わないが、学生のやる気を刺激するようなことをしてほしい。

3年生

文学部だけの授業では 4 技能すべてをカヴァーすることはできないが、普遍を含めれば4技能を身につけることができる。BBCのニュースをひたすら書きとめる授業などがあり、大変役に立ったが、どの授業でどういうことをやっているのかがよくはわからず、TOEFLを受けると4技能すべての能力が必要とされるので、すべてをカヴァーする授業をやってほしい。

1年生

現在までほぼ普遍教育の英語しかとっていない。受けている授業の内容は工夫されているが、学生の学力レヴェルのばらつきによって学習のモチヴェーションが下がってしまうようなことが感じられた。

普遍教育のクラス選択が、抽選制と 2 つの授業セットでの受講というシステムのため、4技能を選ぶ希望がかなわず、意欲低下につながっている。

★教員側からの発言

歴史学コース

保坂教授

日本人の英語による議論の能力の低さは、多くの場合、英語知識の欠如というハード面の問題というよりも、状況を考えて遠慮してしまうという心理的な弱さに起因するので、心を鍛えなければならない。

司会者

寄せられた意見にたいして、フィードバックを行なうなど、慎重に対処する。

学部長

今日の出席者のなかから学生参画会議への参加をお願いする。

■日程：１２／１８（月）　１４：３０-１６：００

■場所：アカデミックリンクセンター プレゼンテーションスペース